

— 「自律」に向けて —

校長 稲田 正平

冬休みに入り猛烈な寒波がやってきて寒さが本格的になりましたが、穏やかに新しい年を迎えることができました。1月1日は天候もよく今年も初日の出が見られました。保護者の皆様、地域の皆様もよい年を迎えられたことと存じます。

さて、冬休み中はさまざまなスポーツイベントが沢山ありましたが、特に印象に残ったのは箱根駅伝での青山学院大学の総合優勝でした。監督の原晋氏のインタビューでは「昨年の失敗を糧に意識改革を進めた」とあり、その意識改革とは選手に一層の「自律」を求めたとのことでした。ここで言う「自律」とは「自分に足りないものは何か、課題や目標は何かというのを一人ひとりが考えて実行すること」だとインタビューでは伝えていました。確かに青山学院大学の各選手のコメントにも「自分よりも強い選手と並走していると自分の状態が良好であると確認できたので残り3キロでスパートしました」「最初はあまり突っ込んで入らず、登りで一気にペースを上げようと思っていました」「自分は相手と並走したり相手を追ったりする展開では委縮してしまい本来の力が発揮できないので、一位で襷を受けてのびのびと走れました」など、優勝という目標に向けてどうしたらよいか、自分の状態を理解した上で選手一人ひとりが自分のレースプランを考え実行した様子が伺えました。

「自律」とは、辞書では「他にしばられず、自分で自分をとりしめること」とあります。

「自分で自分をとりしめる」ためには、自分は何者であるか(自分の得手不得手、自分の性格、自分の長所と短所、嗜好など)をよく理解し、課題の克服や目標の達成に向けてどのように取り組むべきかをよく考え実行できることが求められます。このことは先の各選手のコメントなどからも伺えます。そして我々大人は子どもの「自律」を目指して日々の教育活動に当たっているととっても過言ではないでしょう。ちなみに教育基本法では、自主及び自律の精神を養う(同第二条:教育の目標)、自立的に生きる基礎を培う(同第五条:義務教育)、自立心の育成(同第十条:家庭教育)と「自律」以外に「自立」(自分の力で独立すること)という言葉も見られます。また、ここで言う我々大人とは学校、家庭、地域に関わる大人を指しています。子どもを自律に導くためには、子ども自身に物事の判断や実行を任せて経験を積ませる必要があります。しかし、こうした時について大人は子どもが失敗ないようにと声をかけすぎたり、子どもに任せずに大人が手を出してしまったりして「自律」を妨げてしまうことも多々あるものです。先の原晋氏がレース中に「不安もあった」というのは、選手起用やコンディションのことだけではなく、選手に任せたことへの不安も含まれているようです。当然子どもに任せるには不安が付きにくいものだと思います。しかし子どもの「自律」を促すためには、大人はぐっと堪えて子どもにたくさん経験させ、その中から学ばせることも必要なのではないのでしょうか。

2022年という新たな年を迎えて、新型コロナウイルス感染症の感染がまた拡大傾向の兆しが見え始めています。特に変異株の市中感染が埼玉県でも確認されたとのこと。本校でも感染予防に十分に配慮しながら三学期の教育活動に取り組んで参ります。また先日は学校評価のアンケートの回答にご協力いただきありがとうございます。結果は裏面に掲載しております。保護者の皆様からいただいたご意見を参考にして、さらに充実した学校になるように今後の学校経営に活かして参ります。そして木崎中生の一層の「自律」を促せるように、教職員一同が毎日の教育活動に取り組んで参ります。どうか本年もご理解とご協力のほどよろしくお願いたします。保護者の皆様、地域の皆様も十分な感染対策の上健康にご留意されてお過ごしください。